

令和6年度 自己評価及び関係者評価

加古川市立氷丘南幼稚園

- 1 教育目標 『心豊かに学び合い 育ち合うこどもの育成』
 2 目指すこども像 ①心も体も健やかで 明るい子 ②思いやりがあり 心の優しい子 ③様々な経験を通して 主体的に遊ぶ子 ④自分の思いを伝え 素直に 表現する子
 ⑤感じる心 考える力がある子
 3 評価基準 A：十分できた B：ほぼできた C：少し課題を残す D：不十分

重点目標	評価の観点	自己評価	◎成果 △課題 ※改善の方策	関係者評価
基本的な生活習慣の確立と決まりある生活態度の育成	・幼児期にふさわしい生活が展開され、こども一人一人の発達課題に即した育ちが保障されたか。	B	◎世界の挨拶で毎朝、挨拶することで世界に興味や関心を広げるとともに挨拶することへの抵抗が和らぎ、意欲へとつながった。 ◎個々の発達や特性に合わせた援助を考え、試行錯誤することで基本的な生活習慣は身に付いてきた。 ◎職員間で話し合いをもつことで様々な視点からこどもの姿を読み取ることにつながった。その結果、望ましい援助へとつながった。 ◎行き来可能な立地条件を生かし、氷丘幼稚園との合同保育は年間を通して実施することができた。 △こどもの思いや考えの変化に合わせた環境の再構成や保育教諭の柔軟な対応がさらに必要。 ※職員ひとりひとりが実行できるようにこどもの実態と日々の遊びの様子や個々がすべきことを具体化できる話し合いの進め方を工夫する。	・世界の挨拶に視点をおくことで、興味や楽しみから積極的に挨拶する姿につながった。 ・世界地図や今まで調べた国旗と挨拶をかいたものを掲示していることが、振り返ることになり、他の国はどうか比較したり同じものを見つけたりすることになり、よい環境になっている。
	・こどもの発達段階や地域の実態に即し、幼稚園の特性を生かした内容であったか。	B		
	・園舎、園庭が幼児にとって安全に主体的な遊びを展開できる環境であったか。	B		
様々な体験から感動する心、命を感じる心や社会生活に触れながら道徳性の芽生えを培う。	・自然体験や様々な人々との交流などを通して、豊かな感性や思いやり、社会性を培う心の教育ができているか。	A	◎水や砂、土、空、風等、普段当たり前にある身近な自然は意識し、園にない葉や木の実、生き物は探して保育に取り入れ、様々な感情を表現するようになった。 ◎様々な国の衣装や動物、ダンス、食べ物等を調べて、個々に興味をもったものを選んで制作やショー、レストランとして遊びを楽しむことができた。その遊びの中で様々な感情を味わった。 ◎こどもの日々の様子を積極的に話さず、読み取りや援助する方向性を見直し、共通理解することができた。 ◎氷丘幼稚園との合同保育や外部からの講師を招いての活動を通し、社会性や広い視野が育まれている。また、単学級、少人数では難しいことも実現できた。 ◎こどもの人権を学び、改めてひとりひとりを大切にしたり、こども達の話し合いの中で相手も自分も大切にするにはどうしたらよいか考える機会をもったりして生活してきた。こども自身も意識して、友達や地域の方と関わろうとする姿が増えた。 △こどもひとりひとりの興味や関心、変化、必要な環境や支援の違いが分かるように記録や振り返りの工夫が必要である。 △個々の育ちや学びを踏まえて友達との関わりを深められるように内面理解と見極める力が更に必要である。 ※こどもの学びや育ちにつながるように具体的な再構成の話し合いをもつ。	・こどもの興味や関心から、その思いに寄り添い、保育をしており、保育教諭もこどもも楽しんでいることがよく分かる。 ・こども達の成長に触れ、楽しく、嬉しい思いを感じている。
	・こどもの内面理解に努め、教師の関わりや援助は適切であったか。	A		
	・今なお残る差別の実態を直視し、課題を深く認識するなかで自らの問題として捉え、あらゆる生活の場で人権教育・啓発を推進しているか。	B		
思いやりの心を持ち、自立と協同の態度を培う	・発達に必要な経験ができたり、主体的な遊びが展開できたりするような環境が構成されていたか。	B	◎自分の思いや考えを素直に出せる姿が見られるようになった。その中で友達の気持ちに気付いたり、クラスみんなで考えたりする機会をもち、友達のことを知るきっかけにもなった。 ◎こどもひとりひとりの育ってほしい姿やねらいを具体的にもって保育する中で意識した関わりや援助をすることに努めた。その結果、こどもがやりたいことを実現すことへつながる取り組みが増えてきた。 ◎長期間かけてこどもの興味や感心に寄り添い、遊んできたことでこども達が同じ目的をもって意欲に取り組む姿が増えた。	・こどもひとりひとりを大切に 関わり、必要な支援を考えて実施している。 ・どの行事も、発想が豊かで面白く、楽しいものであった。 次年度も楽しみにしている。
	・人間関係を大切に、どんなことでも話し合えたり、自己を高め合ったりするクラスや職場の雰囲気づくりができているか。	A		

	<ul style="list-style-type: none"> 各行事の時期や内容は適切であったか。また、創意・工夫がされ幼児にとってふさわしい内容であったか。 	A	<p>◎こどもの実態を踏まえ、行事のねらいや目的をその都度職員間で考え、取り組むことができ、こどもがいきいきと取り組む姿が見られた。</p> <p>◎こども達は、クラスや園全体で創りあげる面白さや楽しさを味わうことができた。</p> <p>△チームとして更なる力につながるように職員ひとりひとりがこどもの主体性につながるねらいとそれにもなった環境づくりを考え、実践することが不十分である。</p> <p>※個々の育ちを保証しながら、クラスや園全体として進めていく遊びの充実を図る。</p>		
保育教諭としての専門性を磨き、資質向上を図る	<ul style="list-style-type: none"> 積極的に園内外の研修に参加し、自らの資質向上に努めているか。 	A	<p>◎人権、倫理研修を通して、多様な問題に触れ、自分の立場で考える機会をもつことができた。たくさんの人の意見を聞くことが新たな発見や学びにつながった。</p> <p>◎課題や問題意識をもって研修に参加したり、職員間で話し合っ工夫したりすることができ、学んだことを少しずつではあるが取り入れ、試すことが増えた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 忙しい中で、オンラインも利用しながら、一緒に学ぶ機会をもったり、たくさんの専門的な研修にも参加したりしている。 危機管理につながる研修をさらに深めてほしい。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 時代の流れや社会の状況の変化に対応した幼稚園教育のあり方、教育課題の把握に努め、解決に向けた取り組みができたか。 	B	<p>◎他の人の意見や考えを聴かせてもらうことで新たな気づきがあった。</p> <p>◎学んだことを生かしながら、一人一人のよさを認めていくことを意識し、関わることができた。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> 安全や防災に関する組織を確立し、防災知識や危機管理の向上に努めたか。 	A	<p>◎緊急時に職員ひとりひとりが対応できるように職朝で欠席のこどもや出勤の職員を確認することにしたことで、危機管理に対する意識が高まり、臨機応変な対応にもつながっている。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> 多様な障がいの状態に応じた指導内容や方法、教育的配慮ができるように専門性の向上に努めたか。 	B	<p>△個々の困り感や内面を読み取り、個に適した方法を見極める力を高める必要がある。</p> <p>△普段は落ち着いて考えて行動できるが、叱咤には対応する力は不十分と痛感している。</p> <p>※園内の危険や侵入の可能性があり得る場所の見直しを行い、様々な想定訓練と話し合いを積み重ねる。</p> <p>※専門的な知識につながる研修に参加する機会を園内でももつ。</p>		
地域・家庭・学校と連携、協働し、教育力の向上に努める	<ul style="list-style-type: none"> 保護者の願いや期待を受けとめ、共通理解のもと連携して保育を進めてきたか。 	A	<p>◎嬉しかったことや新たな姿など、園庭開放や参観等を利用して伝えてきたことで、保護者の方と喜びを共有できたり、こどもを認める言葉につながったりした。</p> <p>◎連続した学びにつながるように小学校の授業を参観させてもらったり、小学校の先生とこどもと一緒に遊んだりする機会を増やすことができた。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 距離や日陰などを考慮し、安全に行き来ができるように地域に協力を得ながら、合同保育を積み上げ、こどもにとってとても貴重な体験となっている。 小学校との新たな交流が実現し、来園する教諭が増えたことは嬉しい。さらにはしきを意識しながら交流を深めてほしい。 	A
	<ul style="list-style-type: none"> 地域の人々の積極的な協力を得たり、地域の施設や環境などを園の教育活動に生かしたりしたか。 	B	<p>◎氷丘小学校、氷丘南小学校との交流が進み、小学校の先生や小学生と関わる機会が新たに増え、こども達が小学校を身近に感じ、安心感へとつながっている。</p> <p>◎この保育の何が、こどものどこの力につながっているのか、また、そのためにどのような環境構成や援助をしているのか、来園していただき、伝える機会をもった。</p> <p>△就学を意識した内容やひとりひとりの育ちや学びにつながることをより多く、伝えていくことが必要である。</p>		
	<ul style="list-style-type: none"> 園だよりや園通信、懇談等により園の目標や方針を知らせ、保護者と相互理解するとともに信頼関係を深めていくことに努めたか。 	A	<p>※保育を振り返る際に個々の育ちや学びを職員間で話し合い、保護者や地域に伝える機会をもつ。</p> <p>※連続した学びにつながるように小学校へ行ったり、小学校の先生に来園してもらったりする機会を計画する。</p>		